宇和島における標準語についての一考察

１年１組　今野　美空　１年１組　大﨑　珠乃　１年１組　加賀山紗奈
１年１組　清水　若菜　１年１組　東　　優希
指導者　西岡めぐみ

１　課題設定の理由

私たちは、普段の生活の中で、主なコミュニケーション手段として言葉を使用している。日本では方言やイントネーション、アクセントが地域によって違いはあるものの、日本語で意思疎通することができる。愛媛県の言語マップでは宇和島は標準語に近いとされている。距離的には離れている関東の言葉に近いイントネーション、アクセントになっていることを疑問に感じ、本当に標準語に近いかどうか調査したいと考え、この課題を設定した。

２　研究の方法

(1)　音声の採取

2017 年８月に仙台市で 15 名分の音声データの採取を行った。その後 11 月から本校の１年生を対象に音声データの採取を行った。

(2) 音声アプリによる分析

採取したデータを分析できるように変換し、音声アプリを使って分析を行った。

３　結果と考察

今回使用した音声アプリではデータがグラフ化され、横軸が時間（ｓ）、縦軸が音の高さ（Hz）を表すことができる。また、強い音が赤で表される（**図１**）。仙台市での調査では、宮城県から沖縄県まで幅広い地域の音声データを採取したが、音声アプリによる分析では明確な違いが分からなかった。そこで、まず何をもって標準語にするのか検討を行い、本校放送部の方のアナウンスで使われる話し方（サンプル１）を標準語として考えることにした。話してもらう言葉についても文献を参考にイントネーションの違いがわかりやすい「手が痛い」「命は重い」という２つに絞った。標準語のアクセントは、「手が痛い」の場合、「手」にアクセントがあり、「命は重い」の場合、　命の「い」と、重いの「もい」にアクセントがある。関西弁（松山など）のアクセントは、「手が痛　い」の場合、「が」にアクセントがあり、「命は重い」の場合、命の「い」と、重いの「お」にアクセントがある（『宇和島市誌』P99 参照）。

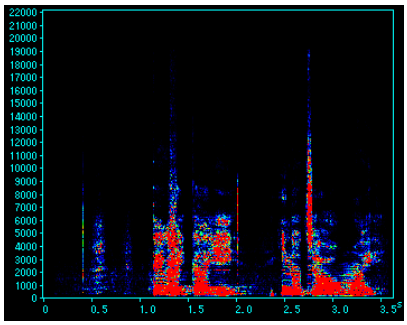

図１：音声のデータ化

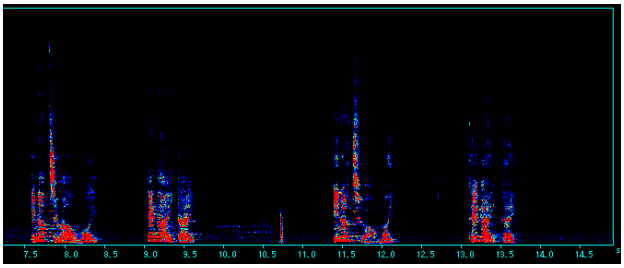

図２：放送部員２名の音声データ

まず、放送部の方２名のデータを採取した。そのデータを音声アプリで解析した結果が**図２**である。音声データでアクセントを確認し、**図２**と照らし合わせると、２名とも「手が痛い」の場合、「手」と発音しているところが赤くなっており、「命は重い」の場合、「い」と、「もい」のところが赤く出ていることが確認できた。次に、本校の１年生 50 名分のデータを採取し、出身中学校別にまとめたものが次の表である（**表１**）。

表１：被験者の出身中学校と人数

出身中学校	城南	城北	城東	吉田	津島	三間	広見	松野	野村	宇和	一本松
人数	6	6	8	7	4	4	6	5	1	1	2

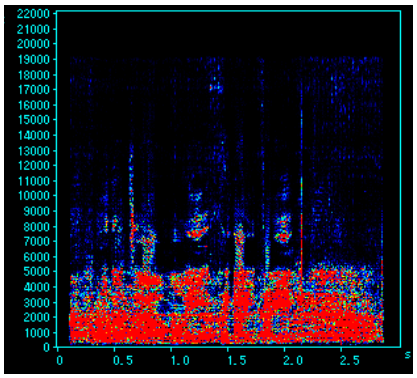

図３：アクセントが強く出ているデータ

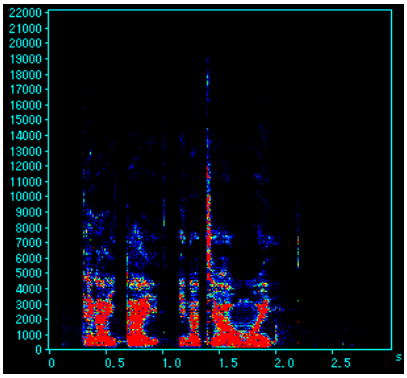

図４：アクセントが弱いデータ

最初に、音声アプリで分析したデータ結果とサンプル１と比較検討を行ったが、標準語のアクセントかどうかの判別・判断が難しく、38 名分の音声データについて、標準語のアクセントかどうかを判断した。アクセントを聞き比べて、「手が」の部分では判断に迷うものがあったが、「命は重い」の部分では 38 名全員が標準語のアクセントになっていると判断できた。出身中学による大きな違いは見られなかった。その後、音声アプリの分析結果と音声データを照らし合わせた結果、アクセントの強いところが赤く示されたので、宇和島弁が標準語に近いと検証できた。音声アプリの分析でアクセントがはっきり分かるものが**図３**のように示される。逆にアクセントを示す赤が出ていないものが**図４**である。この分析過程で、音声アプリによる分析では、どの音を発音している時にアクセントがあるかが判断し難く、パソコン上では見やすい背面の色が比較検討する際にはデメリットになってしまうことが分かった。

４　まとめと今後の課題

今回の研究では、音声データの採取方法を見直したり、標準語のアクセントであるかどうかの判断材料を変更したりするなど試行錯誤を繰り返した。効率的に研究を進めることが難しく、課題が多く残ることになった。特に、音声アプリを有効に活用することができず、その結果私たちの聴覚による判断で宇和島弁は標準語のイントネーションに近いという検証するにとどまった。

今後は、宇和島弁が標準語に近いと結論づけるための指標をより確実にするための方法を研究したり、音声データの採取方法・環境を見直して効率的なデータ採取を行ったりすることでより正確な検証を実現させたい。

謝辞

今回の活動では、音声データの採取に当たり多数の生徒の皆さんに協力していただきました。ありがとうございました。

参考文献

・宇神幸男（2011）『宇和島藩　藩物語』　P38　現代書館
・土井中照（2005）『愛媛ことば図鑑』　P13　アトラス出版
・篠崎充男　編集（2005）『宇和島市誌』　P99　宇和島市